

方言 地域交流に生かす

方言を地域のコミュニケーションに生かそうと研究を続けている。「方言は地域の豊かさの象徴。まちづくりや地域づくりのきっかけになる」と話す。

都城京ヶ丘高から早稲田大文学部に進学。研究の道に進んだ。2001年までの3年間勤務した宮崎国際大の専任講師時代には、ラジオやテレビで面白さを伝えた。07年から埼玉県新座市にある現在の大学に勤める。

約10年前、鹿児島県・奄美大島で若者と高齢者から同時に話を聞き、同じ地域に住ん

十文字学園女子大教授

まつながしゅういち
松永修一さん 55

でいてもお互いをよく知らないと感じた。調査を報告書にまとめるだけでなく、対話の場をつくる活動を始めた。

県内では昨年12月、都城市で中高生約10人に集まってもらい、方言活用策を考えるワークショップを開催。NHK宮崎放送局の夕方のニュース番組で、宮崎弁を解説するコーナーに出演している。

「若い人は方言にかわいらしさを感じている。年配者が方言を使えば、孫に誇りを持って文化を伝えることになり」。方言の価値を大事にしたという。(埼玉朝霞市)

